

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第12回）

日時：令和3年6月29日（火）9時-10時

参加者：（教員等協議会）飯本（理事）、安岡（理事）

（若手研）迫田（理事）、廣田（参与）、辻、中畠

（学友会）福田

概要：

●若手研メンバーを増強するための施策

・背景

若手研の活動を外部メンバーに依頼することも多いが、基本的に応じてもらえないケースの方が多く、結局メインの運営メンバーが担当することになっている。まずはメンバーを増やしていく必要がある。現在は30人程度であるが、基本的に条件を満たしている方には自動的に入るような仕組みがほしい。これによって活動をしやすくしたい。

・既存の該当者（100人くらい）に向けての働きかけとして2通り挙げられる。

①「このような決まりになりました。よってあなたは会員です。」というアナウンスで入ってもらう。

②活動報告を定期的を送りながら、「良ければ入ってください」と募集し、入会を促す。

→若手枠と若手研枠の区別が難しいので、とりあえずメーリングリスト（以下、メーリス）を用いて送る体制を行っていくのは有効と思われる。入会の見込みのある方へピンポイントの働きかけになることも多いので、そもそもの接点を増やすことは効果的である。

→②は強制的な感じがしないので良いかもしれないが、若手の方々は自分が必要なものみの参加に終始しているので能動的に入ってもらうのが難しい。若手のメーリスを用いての周知を行ってしまうとわざわざ入会することの利点が分からず、差分を感じてもらえないのではないか。

→運営は別として、まずは内情を知ってもらうことが大切であると考えられる。

・強制的なイメージを出すのではなく、活動を紹介しつつ、良ければ入ってくださいとお願いする形が良いのではないか。（学会参加のために入会するパターンが大体の例なので、発表したいから入るだけなのになぜ若手研に入らなければならないのかと思われにくいような方法がよい。）

→若手のメーリスには普通に入れてしまっていて、「いつでも入会募集です」と呼びかける形か？ 発信する機会、知っていただく機会は必要である。

・若手であることと若手研に入ることが直接つながらない人が多い。運営に携わりたいとお

思ってくれる人はどうすれば増えていくのか。

→若手研の利点は自分の活動を周りの人に知ってもらえることである。運営は面倒くさいというイメージはあるし、自分は対象外だと思っているケースも少なくないので、まずは自分は対象内の人間なのだと認識してもらうことが大切。

・まずはメールで周知し、かつ学会で活躍している方や交流会に来てくれている方を一本釣りするのが良いかもしれない。そのための接点として若手全体のメールが有効。

→そもそも若手研の存在を知られていないかもしれないので若手全体のメールは有効。

・期も変わったので新たな情報提供の施策としても始めやすい。

→役職を持つメンバーも多いので立て続けに投稿を送り、目に入る機会を増やしやすい。

・交流会で初めて参加された方の多くは職場の上司から勧められたらしい。アドバイスを出す立場の人から勧誘いただくことも有効。

・入会フォームに若手研の活動へのリンクを貼っておき、そのうえで若手研に入会する選択肢を準備する（入会意思のある人がチェックボックスを入れる）。

・入会時に若手研に入る意思がなくとも、その後は若手のリストでフォローができ、若手研の活動に参加するきっかけを提供する。

・学友会の場合、学生の大半は入っては抜けてを繰り返すことが多く、手続きが煩雑

→学生時代の経験が後につながることもあるので、申し訳なさを感じることなく積極的に参加してもらえそうな風潮になるとよい。

●以前のシンポジウムについて

SNS の運営状況報告、アクセス状況の報告

質疑応答は特になかった。

●今後の予定

若手会員向けのメールリストを新たに立ち上げて、活動報告メールを試験的に送付する試みへ。

第1回メール案を飯本理事が担当する。

次回は8月4日（水）9:00-10:00

以上